

平成 25 年 5 月 27 日

長岡市教育委員会（定例会）会議録

長岡市教育委員会



1 日 時 平成 25 年 5 月 27 日 (月曜日)

午後 2 時 15 分から午後 3 時 25 分まで

2 場 所 黒条小学校 図書室

3 出席委員

委員長 大橋 岑生      委 員 羽賀 友信      委 員 中村 美和  
委 員 青柳 由美子      教育長 加藤 孝博

4 職務のため出席した者

教育部長	佐藤 伸吉	子育て支援部長	矢沢 康子
教育総務課長	若月 和浩	教育施設課長	中村 仁
学務課長	田村 均	学校教育課長	田中 仁
子ども家庭課長	佐藤 正高	保育課長	栗林 洋子
中央公民館長	武樋 正隆	中央図書館長	金垣 孝二
科学博物館長	山屋 茂人	学校教育課主幹兼管理指導主事	大矢 慎一
学校教育課主幹兼管理指導主事	笠原 徹	学校教育課主幹兼管理指導主事	山之内方史

5 事務のため出席した者

教育総務課庶務係長 水内 智憲      教育総務課庶務係 木村 晶子

## 6 議事日程

日程	議案番号	案 件
1		会議録署名委員について
2	第 29 号	長岡市柿が丘学園運営規程の一部改正について
3	第 30 号	補正予算の要求について

## 7 会議の経過

(大橋委員長) これより教育委員会 5 月定例会を開会する。

---

### 日程第 1 会議録署名委員について

(大橋委員長) 日程第 1 会議録署名委員の指名を行う。会議録署名委員については、会議規則第 44 条第 2 項の規定により、中村委員及び加藤委員を指名する。

---

### 日程第 2 議案第 29 号 長岡市柿が丘学園運営規程の一部改正について

(大橋委員長) 日程第 2 議案第 29 号 長岡市柿が丘学園運営規程の一部改正について を議題とする。事務局の説明を求める。

(佐藤子ども家庭課長) 改正理由としては指定障害児通所事業者の指定申請を行うに当たり、必要な改正を行うものである。改正内容としては、園長が管理者であることを明記する、児童発達支援管理責任者の配置を明記する、職員数について実数により規定する、利用保護者から受領する費用について明記するものである。県の指導に基づく改正であり、指定申請は県が受領済みで、公表の日から施行する。

(大橋委員長) 質疑、意見はないか。

[「なし」と呼ぶ者あり]

(大橋委員長) ないようなので、これより採決に移る。本件は、原案のとおり決定することに異議はないか。

[「異議なし」と呼ぶ者あり]

(大橋委員長) 異議なしと認める。よって、本件は原案のとおり決定した。

---

日程第3 議案第30号 補正予算の要求について

(大橋委員長) 日程第3 議案第30号 補正予算の要求について を議題とする。  
事務局の説明を求める。

(若月教育総務課長) 来月18日からの市議会6月定例会に諮る補正予算について  
教育委員会として市長に要求するものである。

(金垣中央図書館長) 西地域図書館空調機1台が故障したため入れ替え工事費を要  
求するものである。

(山屋科学博物館長) 歳出は、緊急雇用創出事業として寺泊地区の写真整理を県の  
緊急雇用創出事業を活用して行うものと、盲田遺跡発掘調査事業費として富島地区  
の県営ほ場整備事業の計画変更に伴い、発掘調査を今年度に前倒して行うもので  
ある。歳入は、それぞれ2つの事業について緊急雇用創出事業費は100%、遺跡発  
掘調査事業費は国から95%、県から0.75%の補助があり、残りの市の持ち出し分  
を要求するものである。

(佐藤子ども家庭課長) 子ども家庭課の歳出は、24年度の事業費の確定に伴い、  
妊婦検診及び予防接種補助金を精算し、県に返還するものである。

(大橋委員長) 質疑、意見はないか。

[「なし」と呼ぶ者あり]

(大橋委員長) ないようなので、これより採決に移る。本件は、原案のとおり決定  
することに異議ないか。

[「異議なし」と呼ぶ者あり]

(大橋委員長) 異議なしと認める。よって、本件は原案のとおり決定した。

---

(大橋委員長) 本日の日程は終了する。次に協議報告事項に入る。報告事項として、  
「西谷小学校統合に関する要望書」について事務局の説明を求める。

(田村学務課長) まず、概要だが去る5月13日付けで、西谷小学校PTAと小学校

区住民の総意として、「西谷小学校統合に関する要望書」が提出された。要望者は、西谷小学校PTA会長はじめ、小学校区を構成する7つの区の全区長である。次に、要望事項の要旨としては(1)平成27年4月に西谷小学校を栃尾南小学校に統合すること、(2)統合後の通学方法は、スクールバスの運行を行うこと、(3)統合までの間、児童が新しい環境に円滑に適應できるよう配慮することである。次に、要望書提出に至った経緯だが昨年の3月に、西谷小学校区の一つである田之口区に在住で、平成26年度に西谷小学校へ就学を控えているお子さんの保護者から、適正な教育環境を求める学校統合についての要望書が提出された。この、切実な願いが西谷小のPTA会員と地元の皆さんへと伝わり、平成24年度1年間にわたって、PTAを中心に関係する皆さんとの検討・協議が重ねられ、最終的に地元主体の要望としてまとまったものである。この要望を受けた教育委員会としての対応の基本方針としては、要望を尊重し、平成27年4月の統合を実現するものとしたい。統合までの全体スケジュールについては、平成27年4月1日の統合に向けて、平成25年度には県教委への教員要望、統合関係予算の要求などを予定している。また、議会に長岡市立学校設置条例の改正を諮る予定をしているほか、今後地元との調整しながら、閉校セレモニーの開催などを見込んでいる。なお、教育委員会としては、近いうちに定例会において、議会の議決を予定する長岡市立学校設置条例の改正案を議決案件として提出させていただきたい。なお、要望書の内容については、資料として写しを添付してあるので後ほどご覧いただきたい。

(大橋委員長) 質疑、意見はないか。

(青柳委員) 来年平成26年度の就学を控えた生徒数は何名か。

(田村学務課長) 来年度入学予定者、新1年生は3名の見込みである。

(大橋委員長) 地元の皆さんからの要望を最優先にして受止め、教育委員会として対応したい。PTA会長が頭になり区長も賛同しているということか。

(田村学務課長) 全ての区長が地元を持ち帰り地区総意として賛同している。

(加藤教育長) 区長さんにとっては我が子も通学した学校を廃校にするのは相当な決断である。未来を託す子ども達の教育環境のため、地域が総合的に考え英断したことを重く受止め、尊重し、要望事項に対してしっかりと対応していきたい。通学方法のバスの運行は現時点でどう考えているのか。

(田村学務課長) 現時点で西谷学区から秋葉中学校に通うスクールバスが運行している。その運行時間を見直し対応したい。

(加藤教育長) 既に中学生用のバスが出ていて新たなバス路線を設けるわけではないと理解する。新しい環境に円滑に適應できる配慮について学校教育課から補足してほしい。

(大矢管理指導主事) これまでも小小連携として西谷小学校の子が栃尾南小学校に行くことが年に数回あった。また、西谷小学校と中野俣小学校の連携もしている。今後は栃尾南小学校長に情報提供し、円滑な運用と子どもたち同士の結びつきを働きかけたい。平成 27 年度 4 月に向け、複式学級については来年度、県からの教員の加配により解消したい。

(佐藤教育部長) 平成 26 年度入学の子ども 3 名についても統合前ではあるが希望すれば栃尾南小学校に入学できるような教育的配慮を検討中である。

(加藤教育長) 複式学級で 3 年生と 4 年生が 1 人の先生と一緒に学習している。3 年生に教えるときは 4 年生に課題を与え、4 年生に教えるときは 3 年生に課題を与えるという不自由な学習指導をしている。他の学校では各学年にひとりの先生がついている。教え忘れ、学び忘れのないよう先生をきちんと配置してほしい。

(大橋委員長) 他に質疑、意見はないか。

[「なし」と呼ぶ者あり]

(大橋委員長) 質疑、意見なしと認める。次に、長岡市私立高等学校学費助成要綱の一部改正について、事務局の説明を求める。

(田村学務課長) 長岡市私立高等学校学費助成要綱は、市長の補助執行として改正を行い、長岡市として公表するため、報告事項とする。最初に、長岡市私立高等学校学費助成事業について概略を説明する。この事業は、私立高校に在学している者の保護者等に対し、学費を助成することにより、修学上の経済負担の軽減を図る目的で行っているものである。まず、改正理由だが、平成 24 年度の税制改正により、特定扶養親族のうち 16 歳以上 19 歳未満の者に対する扶養控除の上乗せ分及び年少扶養控除が廃止されたことに伴い、学費助成の対象となる世帯の要件を改正するものである。これは、扶養控除の見直しに伴い、扶養親族の数に応じた基準とするものである。改正内容は、現行で 3 段階ある助成区分のうち、年額 17,000 円の支給

対象となる第3種助成区分の要件について、19歳未満の扶養親族の人数により、所得割額の上限額を改めるものである。施行期日は公表の日からとし、平成25年度分の助成から適用する。

(大橋委員長) 具体的に長岡市内のどの私立学校が対象か。

(田村学務課長) 中越高等学校、帝京長岡高等学校、この4月に校名変更した通信制の長岡英智高等学校(旧・英智ウィル学院)の3校である。

(大橋委員長) 他に質疑、意見はないか。

[「なし」と呼ぶ者あり]

(大橋委員長) 質疑、意見なしと認める。次に、平成25年度学校・子どもかがやき塾夢企画事業について、事務局の説明を求める。

(田中学校教育課長) この事業は、子ども達に自信や夢を持たせ、やる気や学ぶ意欲を引き出すために、学校が創意工夫する特色ある教育活動に対し、財政支援として30万円を上限に学校に配当するものである。小学校16校、中学校9校の応募があり全学校を採用した。それぞれの学校の地域の実態、諸事情、背景を考え、提案どおりの額とならなかったものもあるが、全ての学校の提案を採用した。例えば上川西小学校は学区に信濃川があるため信濃川をテーマとした自然観察、歴史探訪、ウォークラリー、マラソンなどでふるさとに対する愛着を育み、希望が丘小学校は「命のバトンをつなごう」という平和学習を行った後、劇を上演する、また、西中学校では「トップアスリートと走る校内駅伝大会」と題して、全国レベル実績の先生がいるという人脈を活かし、講演会、交流会、駅伝大会を開催するという事業であった。

(大橋委員長) 質疑、意見はないか。

(青柳委員) 上限30万円だが、審査はあるのか。手を上げられたものは全て採用しているのか、合計25校だが予算としてはこれくらいが上限なのか。

(田中学校教育課長) 審査は学校教育課において行っている。小学校は申請のあった16校、中学校では10校前後で予算的にはこれが一杯である。

(大橋委員長) 昨年度は無かったが、今年度提案してきた学校はあるか。

(大矢管理指導主事) 中之島中央小学校の凧揚げ交流、上通小学校などは校長(前・上小国小学校長)が新しくなったため提案している。

(大橋委員長) 中学校はどうか。

(大矢管理指導主事) 中学校は常連が多いが、西中学校が新しく出てきた。

(大橋委員長) 他に質疑、意見はないか。

[「なし」と呼ぶ者あり]

(大橋委員長) 質疑、意見なしと認める。次に、平成 25 年度長岡市成人式について、事務局の説明を求める。

(佐藤子ども家庭課長) 5月3日に長岡5地域の成人式が無事終了した。長岡地域ではアオーレのアリーナとナカドマの間の扉を開放し立ち席を設けたため騒がしかったなどの反省があった。一方で、家族の観覧が昨年より100名程増加している。栃尾地域でも席の余裕はあったが参観者が約100名と多かった。

(青柳委員) 長岡地域の成人式に参加したが、成人は久しぶりの再会で大騒ぎしていて騒がしく、マイクを通して祝辞が聞こえなかった。午後からの栃尾地域の成人式は新成人が司会や受付をし、自分たちも参画して大人の階段を登り始めることが感じられる雰囲気の良い成人式であった。

(大橋委員長) 長岡地域は今までにない騒がしい成人式であった。成人全員の席が用意されていたのか、されていたとしても誘導に不備があり前の方が空いていた。会場全体が騒がしいわけではなく、立っていた成人が話しを聞かず騒がしくしていた。

(加藤教育長) 5地区での成人式の予算はどのくらいだったのか。

(佐藤子ども家庭課長) 手持ちの資料がないが、多額な予算はかけていない。

(加藤教育長) 会場は公的施設なので会場費はかからない。担当課が一番人員を配置した長岡地区が騒がしく残念であった。他は新成人が自分達の手でやって少し行政が手助けした。長岡地域は来年の構想について早めに着手し、練りに練ってやってほしいと強く要望する。

(大橋委員長) 質疑、意見はないか。

[「なし」と呼ぶ者あり]

(大橋委員長) 質疑、意見なしと認める。次に、平成 25 年度子どもの虐待防止啓発事業「怒鳴らない子育て講座」の実施について、事務局の説明を求める。

(佐藤子ども家庭課長) 「怒鳴らない子育て講座」は、昨年平成 24 年度より始め

た。NPO法人「子どもの虐待防止ネット・にいがた」に事業委託と共に子ども家庭センター職員も連携して動いている。保育園・幼稚園保護者向けの講座。父母の会、保護者会に出向いての出前講座で、保育園にも保護者にも負担のかからないやり方で開催し、講座が中心である。平成 25 年度は黒条保育園から始まり私立幼稚園含め 23 園で実施予定である。

(羽賀委員) すばらしい取組だが、自分の事例をみんなの前では相談できないがそのあたりのフォローはどうか。

(佐藤子ども家庭課長) 個別相談については、子ども家庭センターを紹介するなどして対応している。

(中村委員) 初年度、平成 24 年度は 20 園で実施済みで昨年度実施のところは今年はないようだが、今後も続く事業なのか。保護者は変わっていくのでずっと続けていければよいのだが。

(佐藤子ども家庭課長) やり方の工夫が必要である。出前講座は職員とNPOの市民団体で3年かけて小学校を一とおり回り、今度は保育園・幼稚園で行うが、その後はまだ決まっていない。

(加藤教育長) 学校は保護者対象だったのか。

(佐藤子ども家庭課長) 学校は教員のみ対象であった。

(大橋委員長) 質疑、意見はないか。

[「なし」と呼ぶ者あり]

(大橋委員長) 質疑、意見なしと認める。次に、子ども・子育て新制度の概要及び今後の主なスケジュールについて、事務局の説明を求める。

(佐藤子ども家庭課長) 子ども・子育て新制度が平成 27 年 4 月から始まる。根拠となる法律、子ども・子育て関連 3 法が成立した。3 法とは 子ども・子育て支援法 認定こども園の一部を改正する法律 関係法律の整備等に関する法律である。関係法律とは 55 にわたる法律を改正するためのものである。3 法の趣旨は自公民 3 党合意を踏まえ、保護者が子育てについての第一義的責任を有するという基本的認識の下に、幼児期の学校教育・保育、地域の子ども・子育て支援を総合的に推進することである。新制度の概要としては、幼稚園・保育園・認定こども園に共通の給付制度を創設すること、今までは幼稚園・保育園・認定こども園はそれぞれの省

庁の制度でお金が動いていたが共通の給付制度にする。給付という言葉は建前では保護者への給付だが、実際には施設側が代理受領する介護保険のようなものだろうと言われている。現行の幼保連携型認定こども園が平成 27 年 4 月に新幼保連携型認定こども園に一本化され、所管が内閣府となる。幼稚園、認可保育園は今後も存続する。今までは幼稚園、認可保育園だけだったのが、新幼保連携認定こども園を加えた 3 つとなり、所管も幼稚園は文部科学省、認可保育園は厚生労働省、認定こども園は内閣府の 3 つとなる。また社会全体による費用負担ということで、消費税率の引き上げによる恒久財源の確保を前提としている。平成 27 年 10 月から消費税が 10% に上がるため、平成 27 年 4 月にはスタートさせる予定である。今後のスケジュールとしては、「長岡市子育て応援プラン推進協議会」で 8 月から新制度を検討、子ども・子育てに関するニーズ調査を実施し、平成 26 年度に長岡市としての事業計画を策定する予定である。平成 26 年度からは「子ども子育て会議（仮称）」を条例で設置、これが現行の「子育て応援プラン推進協議会」に替わる会議と位置づけ衣替えする。会議の名称も委員の意見を聞き、決めたい。平成 27 年 3 月には「子ども子育て支援事業計画（仮称）」も策定する。これも仮称なので委員の意見、パブリックコメントで決定したい。

（大橋委員長） これまでの子育て応援プランを作りかえるのか。

（佐藤子ども家庭課長） 事実上 10 年間の時限立法だったが、一部延長の動きもあるが、基本的には子ども子育て支援法に基づく事業計画を全ての市町村が策定できるよう努力することになる。

（大橋委員長） 質疑、意見はないか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

（大橋委員長） 質疑、意見なしと認める。次に、第 3 回長岡藩主牧野家の至宝展について、事務局の説明を求める。

（山屋科学博物館長） 「第 3 回長岡藩主牧野家の至宝展かしわ、雨籠、五間ばしご」を開催、期間は 5 月 30 日から 6 月 2 日まで、会場はアオーレである。長岡のシンボリックなものとして第 1 回目は藩主のサイン（花押等）であったが今回はこれを取り上げたい。関連行事としてお茶会を予定しているので是非お越しいただきたい。

（大橋委員長） 他に質疑、意見はないか。

[「なし」と呼ぶ者あり]

(大橋委員長) 質疑、意見なしと認める。他に報告事項はあるか。

(佐藤子ども家庭課長) 今年度4月に子宮頸がん予防ワクチン接種が国が推奨する定期予防接種になり、長岡市としても接種を勧めるため全ての中学1年生の女子生徒の保護者に子宮頸がん予防ワクチン接種チラシを配布した。5月の連休明けには、一人ひとりの予診票を個別にダイレクトメールで配布した。各学校の養護教諭からは子宮頸がん予防の啓発講義をしてもらう計画である。定期予防接種なので積極的に勧奨するが、副反応のリスクもあるので医師との相談を呼びかけている。4月以降、報道でも取り扱われ、子宮頸がんワクチンが本当にいいのかどうか、どうしても今、接種したほうがいいのか問い合わせがあり、最後は医師と相談してよく検討してほしいと周知している。

(加藤教育長) 確認だが、集団接種はしないのか。各自が医療機関に行くのか。

(佐藤子ども家庭課長) 集団接種はしない。

(加藤教育長) 副反応のリスクの表示が弱いのではないかと、「腫れるなどまれにアレルギー反応が出ることもある」で本当に大丈夫なのか。

(青柳委員) 1か月くらい入院して痺れが続いた事例があるようだ。

(佐藤子ども家庭課長) 国の研究報告によると他の予防接種よりも少ないリスクであるとのことである。積極的に勧奨して問題ないという見解は揺らいでいないが、情報は正確に周知する必要がある。講義や次のチラシで周知したい。

(加藤教育長) 接種率が悪いではないかと、行政は何をしてると問われるかもしれないが、これは個人判断であると周知しなければならない。

(佐藤子ども家庭課長) 自治体としての義務は積極的に勧めることであって、接種させるものではなく、保護者にしていても接種させるように努めるのが義務であり、最後は子どもの意思と保護者の判断である。定期接種の年齢を超えれば自費で接種してもらう。

(羽賀委員) 接種により車椅子生活になってしまったお嬢さんのドキュメントをテレビで見た。親はとても悔やんでいた。事例としてはこういうことも載せておかないといけない。

(加藤教育長) 最終的には本人の体調等を考えたうえでの保護者の判断だが、啓発

には取り組んでいかなければならない。先ほどの話題で自公民合意で子育て3法ができたが、子育ての第一の責任者は親であり行政ではない。その点を理解している親とそうでない親では違いがある。我々が何かの機会に校長・PTAと一緒にあって学習会などをやっていかなければならない。

(青柳委員) ワクチンが2種類あるとのことだが、保護者と子どもとで決めてほしいと医者に言われ、一般の保護者は判断が難しい。自費だと3回接種で5万円以上かかる。リスクを伴いながらお金も払う。国の流れだけではなく、話し合いが必要である。

(佐藤子ども家庭課長) 5月に予診票を送った時に小冊子を同封して配布した。その小冊子にワクチンの種類等掲載されていた。この小冊子自体、国が作成した標準的なもので既に送付済みであり活用するよう呼びかける。

(大橋委員長) 他に質疑、意見はないか。

[「なし」と呼ぶ者あり]

(大橋委員長) 質疑、意見なしと認める。他に報告事項はあるか。

(金垣中央図書館長) 6月1日に長岡造形大学内に丸山正三会館がオープンすることに合わせ、栃尾美術館でも6月1日から30日まで、丸山正三展を開催する。昨年末100歳で亡くなった長岡ゆかりの洋画家である。是非、来場願いたい。

(大橋委員長) 質疑、意見はないか。

[「なし」と呼ぶ者あり]

(大橋委員長) 質疑、意見なしと認める。これをもって協議報告事項を終了する。

(大橋委員長) 本日は、定例会の前に西中学校、黒条小学校、を訪問した。委員の皆さんの意見、感想はいかがか。

(青柳委員) 西中学校を訪問した。概ね落ち着いていたが、授業中、少しざわついていた学年もあった。叱るときは叱ることのできる先生が揃っているとの関谷校長の言葉があった。学力向上よりもまず心を育てる校風であった。生徒には良くも悪くも反応があり、打てば響く、心は形を作り形は心を整えるということから気持ちを大切に、先生方が生徒の目線で話し合い、ただ叱るのでなく叱り方にも表情、心を伝えるようにしている。先生方がとても勉強していて生徒を惹きつける授業を心がけ、生徒と先生が掛け合いのような、一緒に授業をやっている雰囲気であった。

「徳・知・体」の3つの柱を大切に、特に「徳」を大切にしている、生徒に人と関わりを持つ姿勢がうかがわれたことがうれしかった。

(羽賀委員) 以前、一部に落ち着かない子もいたようだが、教員の努力で子どもたちかなり変わった。先生が子どものバックグラウンドまでも深く理解し、保護者会で課題を共有している。学年部の教員の連携がうまく取れていて、懇談会の中でも雰囲気として伝わった。教員が心を病むこともなく、教員自身の姿勢が子どもにも伝わり「徳・知・体」を育てている。「誉め認める」ことを校長以下大切にしていた。学校の教育だけでは手が届かない、家庭との連携、社会教育も必要なので協力したい。

(大橋委員長) 西中学校の合言葉は「あじみ」、「あ」は挨拶、「じ」は時間、「み」は身だしなみで心を育てている。一日のスタートを大切に、基本を育てている。生徒の姿勢が良かった。すばらしい先生だと思える力量のある教師が何人かいた。主幹教諭、教務主任、学年主任、生徒指導主事、学年部教職員全体が一致団結して基本に立ち返り取り組んでいて、気持ちの良い学校訪問であった。

(中村委員) 黒条小学校を訪問したが、大規模校で、この4月のスタート時650人、男女325人ずつであった。全てのクラスを回ったので分刻みであったが、生徒は授業を良く聞き、一生懸命取り組んでいた。教室の掲示物など高学年になるにつれ整然と展示されていた。特色ある取組として、教師の資質向上のため著名な先生を呼び研修を行っている。平成10年度から15年間続いているようだ。思いやりの心を育む活動として縦割り班活動ではなく、子ども達に1年生と6年生、2年生と4年生、3年生と5年生とでペアで活動させ、絵本の読み聞かせをしたり、休み時間に遊んだりして心温まる活動をしていた。この地域は新興住宅地で共稼ぎ夫婦が多く、おじいちゃん・おばあちゃんのボランティア活動の力がかなり活用されていた。図書館は児童数の割りに本が少なく少し淋しかった。校舎も増設され広く、ベンチなどもあるのでそこに図書を置くとよいと思う。

(加藤教育長) 児童数が多いなか先生方が工夫してしっかりやっている。先ほどから聞こえているこの子どもたちの応援合戦のように、ある程度の教育・人的環境があればこれだけ学ぶことが多い。児童数の少ない学校ではこういう経験ができない。先生が指導案で教えているわけではないが、子どもたちは暑い思いをしながら声を

出したことは一生心に残る経験である。このようにある程度の学校規模は必要でそこから学ぶことは多い。

---

(大橋委員長) これをもって本日の定例会を終了する。

---



会議の次第を記載し、その相違ないことを証するために署名する。

長岡市教育委員会委員長

長岡市教育委員会委員

長岡市教育委員会委員